

2026年6月21日(日)**臨床コンペティション**

◆ オンデマンド配信あり

13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

[CC-座長] [座長抄録] アクティブシニアに向けた補綴治療

*新保 秀仁¹、*秋山 謙太郎²、山谷 雄一³ (1. 鶴見大学歯学部 口腔リハビリテーション補綴学講座、2. 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 咬合・有床義歯補綴学分野、3. 東京科学大学病院歯科技工部)

[CC-1] 可撤性義歯による咬合再構成とリジッドサポートによる機能・審美回復の実践

*早川 順満¹、*藤田 良磨² (1. 西関東支部、2. 東北・北海道支部)

[CC-2] 金属アレルギー症例に対する高剛性ノンメタルクラスプデンチャーの補綴設計と製作

*小池 一幸¹、*西口 翔太² (1. 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野、2. 徳島大学病院医療技術部歯科医療技術部門技工室)

[CC-3] 義歯の永続性と変化への対応—スウィングウェッジアタッチメントとレーザー溶接—

*鈴木 銀河¹、*原田 直彦² (1. 鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座、2. 鶴見大学歯学部附属病院歯科技工研修科)

[CC-4] アクティブシニアにおける補綴治療の配慮～サバードクラウンとパーシャルデンチャー～

*栗原 崇實¹、*奥森 健史 (1. 大阪歯科大学 高齢者歯科学講座)

[CC-5] アクティブシニアに応える“質実剛健”な可撤性補綴

*池田 欣希¹、*工藤 耕輔¹ (1. 医療法人仁友会日之出歯科診療所)

[CC-6] 全顎的重度歯周炎患者に対しデジタル技術を用いて抜歯即時インプラント治療を行った1症例

*野代 知孝¹、*野林 勝司² (1. 九州歯科大学 口腔再建補綴学分野、2. 九州支部)

臨床コンペティション

◆ オンデマンド配信あり

■ 2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | ■ 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

超高齢社会の現在，仕事や趣味などに意欲的で健康意識が高い，「アクティブシニア」が増加している．失われた口腔機能や審美性を回復する補綴治療は，アクティブシニアの生活の質と社会参加を支える重要な歯科医療である．本セッションでは，歯科医師と歯科技工士が緊密に連携し，精密な検査・診断の基づく治療計画，創意工夫を活かした補綴設計，さらにはそれを具現化する匠の技による治療成果を発表していただく．

[CC-座長] [座長抄録] アクティブシニアに向けた補綴治療

*新保 秀仁¹、*秋山 謙太郎²、山谷 雄一³ (1. 鶴見大学歯学部 口腔リハビリテーション補綴学講座、2. 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 咬合・有床義歯補綴学分野、3. 東京科学大学病院歯科技工部)

[CC-1] 可撤性義歯による咬合再構成とリジッドサポートによる機能・審美回復の実践

*早川 順満¹、*藤田 良磨² (1. 西関東支部、2. 東北・北海道支部)

[CC-2] 金属アレルギー症例に対する高剛性ノンメタルクラスプデンチャーの補綴設計と製作

*小池 一幸¹、*西口 翔太² (1. 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野、2. 徳島大学病院医療技術 部歯科医療技術部門技工室)

[CC-3] 義歯の永続性と変化への対応ースウィングウェッジアタッチメントとレーザー溶接ー

*鈴木 銀河¹、原田 直彦² (1. 鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座、2. 鶴見大学歯学部附属病院歯科技工研修科)

[CC-4] アクティブシニアにおける補綴治療の配慮～サベイドクラウンとパーシャルデンチャー～

*栗原 崇實¹、*奥森 健史 (1. 大阪歯科大学 高齢者歯科学講座)

[CC-5] アクティブシニアに応える“質実剛健”な可撤性補綴

*池田 欣希¹、*工藤 耕輔¹ (1. 医療法人仁友会日之出歯科診療所)

[CC-6] 全顎的重度歯周炎患者に対しデジタル技術を用いて抜歯即時インプラント治療を行った1症例

*野代 知孝¹、野林 勝司² (1. 九州歯科大学 口腔再建補綴学分野、2. 九州支部)

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

[CC-座長] [座長抄録] アクティブシニアに向けた補綴治療

*新保 秀仁¹、*秋山 謙太郎²、山谷 雄一³ (1. 鶴見大学歯学部 口腔リハビリテーション補綴学講座、2. 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 咬合・有床義歯補綴学分野、3. 東京科学大学病院歯科技工部)

キーワード：臨床コンペティション、アクティブシニア、補綴治療

超高齢社会の現在，仕事や趣味などに意欲的で健康意識が高い，「アクティブシニア」が増加している．アクティブシニアとは年齢を重ねてもいつまでもいきいきと活動したい，そして自分の価値が認められていると自覚できるように仕事や趣味に対して非常に意欲的であるとされている．その活力を生み出すのは健康状態を維持できる栄養摂取，つまり「食」であり，歯科医療はアクティブシニアを支える重要な位置づけにあると考える．なかでも，加齢に伴い歯の欠損や歯冠崩壊は増加傾向にあり，失われた口腔機能や審美性を回復する補綴治療は，アクティブシニアの生活の質と社会参加を支える必要不可欠な歯科医療である．昨今，シニアのライフスタイルは多様化しており，その傾向や特徴について十分理解してアプローチする必要があると考えられる．今回の臨床コンペティションではアクティブシニア層の症例に対して，歯科医師と歯科技工士が患者の背景や口腔状態を熟考したうえで緊密に連携し，精密な検査・診断の基づく治療計画，創意工夫を活かした補綴設計，さらにはそれを具現化する匠の技による治療成果を発表していただく．

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

[CC-1] 可撤性義歯による咬合再構成とリジッドサポートによる機能・審美回復の
実践*早川 順満¹、*藤田 良磨² (1. 西関東支部、2. 東北・北海道支部)

キーワード：GoA描記による顎位診断、咬合圧下での機能印象、ミリング設計によるリジッドサポート

アクティブシニアに高い満足度を得る補綴治療には、残存口腔機能の評価に基づく顎機能診査、安定した顎位の確立、精密な義歯設計を総合的に行い、口腔機能の回復へつなげることが求められる。本症例は74歳女性で、下顎の高度顎堤吸収と顎位不安定による咀嚼障害があり、上下義歯の動揺や審美的不満からQOLの低下を認めた。まず治療用義歯を製作し、機能面ならびに審美面の改善と顎位の再評価を行った。製作過程ではGoA描記を用い、客観的かつ再現性の高い顎位診断により安定した顎位にて咬合再構成を行った。適応の得られた治療用義歯からコピーデンチャーを製作し、咬合圧下での機能印象を行うことで、高度に吸収した下顎顎堤の荷重時の挙動と、上顎全部床義歯との機能的咬合関係を精密に記録した。最終補綴では下顎にミリングデンチャーを適用し、ガイドプレーンやミリング角度を技工士と検討してリジッドサポートを高めた。最終補綴物装着後は義歯の動揺が著明に減少し、咀嚼効率・発音・審美性が改善して口腔機能の回復に寄与した。さらに治療後には、食事会や旅行、長年の趣味である好きなアーティストの全国ツアーへ積極的に参加できるほど活動性が向上し、患者はQOLの大幅な改善を実感した。本発表では、治療用義歯製作においてのGoA描記による顎位診断と咬合再構成、咬合圧による機能印象、最終補綴物のミリング設計までの治療過程とその結果を示し、歯科医師歯科技工士連携によるアクティブシニアに向けた補綴治療の意義と口腔機能回復について考察する。なお、患者より発表の同意を得た。

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

[CC-2] 金属アレルギー症例に対する高剛性ノンメタルクラスプデンチャーの補綴設計と製作

*小池 一幸¹、*西口 翔太² (1. 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野、2. 徳島大学病院医療技術部歯科医療技術部門技工室)

キーワード：金属アレルギー、ノンメタルクラスプデンチャー、グラスファイバー強化型レジン

アクティブシニアに対する補綴治療では、全身および口腔状態を踏まえつつ、機能回復と適切な材料を選択することが重要である。今回、海外旅行が趣味の活動的な患者に対し、「金属不使用」と「高剛性」を両立した義歯を製作した症例を報告する。患者は口腔扁平苔癬と多数の金属元素にアレルギーを有する60歳代女性である。本来は陽性金属を含む口腔内補綴装置の除去が望ましいが、固定性補綴装置の撤去は抜歯を伴う可能性が高く、咀嚼機能低下のリスクがあったため患者は希望しなかった。一方、義歯の装着時間を制限したところ粘膜症状が改善したことから、義歯のみを再製作する治療方針とした。患者は金属床義歯を使用しており、その咀嚼機能と装着感に満足していたため、同等の機能回復を強く求めた。そこで、パッチテストで陰性であったチタン床を計画したが、チタン製テストピース装着により粘膜症状は増悪した。そのため、本症例ではレストや大連結子を付与できず完全ノンメタル設計となるため、剛性不足が懸念された。そこでグラスファイバー強化型レジン (FRC) をフレームワークに応用し、耐衝撃性義歯床用レジンと組み合わせ、FRCを義歯床内に埋設する多層構造とすることで応力集中を回避し、高剛性と良好な装着感の両立を図った。装着2年経過時に破損や変形は認められず、粘膜症状も一時的な増悪は認めることがあるものの高い患者満足が得られている。歯科医師と歯科技工士の密な連携と創意工夫が材料学的限界を克服し、高機能で患者のQOL向上に寄与する補綴装置を製作できることを示した。(発表に際し患者の同意を得た)

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

[CC-3] 義歯の永続性と変化への対応—スウィングウェッジアタッチメントとレーザー溶接—

*鈴木 銀河¹、原田 直彦² (1. 鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座、2. 鶴見大学歯学部附属病院歯科技工研修科)

キーワード：スウィングウェッジアタッチメント、サバードクラウン、レーザー溶接

近年、我が国では平均寿命のみならず健康寿命も延伸しており、仕事や趣味に意欲的で、社会活動にも積極的な高齢者が今後さらに増加すると考えられる。このような、いわゆるアクティブシニアに対する補綴治療には何が求められるのであろうか。

患者のQOLを高めるためには、個々の患者希望に応じた補綴治療を提供し、さらにその状態を長期間維持することが重要である。そこで今回、下顎両側遊離端欠損症例に対してスウィングウェッジアタッチメントを用いた金属床義歯を製作したため報告する。

患者は72歳の女性、上下顎欠損部への補綴治療を希望して来院した。治療希望として、下顎には審美性を重視した義歯の製作を、上顎義歯については現状の義歯を継続使用したいとの申し出があった。下顎義歯新製にあたり咬合平面の不正を認めたが、上顎金属床義歯の支台装置を切断・レーザー溶接技術を用いて理想的な位置に支台装置を溶接することで、上顎義歯を新製せずに咬合平面を是正した。スウィングウェッジアタッチメントはパーツを回転させることで支台歯に側方力を加えることなく着脱が可能であり、装着から4年6か月が経過した現在でも、残存歯および歯周組織の状態は良好に維持されている。

本症例では、アクティブシニアに対し審美性に配慮しつつ、義歯および残存組織の永続性を考慮した補綴治療を行った。今後も定期的なメンテナンスにより良好な状態を保ちつつ、やむを得ない変化に対してはレーザー溶接による対応をすることで、患者のより積極的な社会活動を支える一助になると考えられる。

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人日本歯科技工学会

[CC-4] アクティブシニアにおける補綴治療の配慮～サベイドクラウンとパーシャルデンチャー～

*栗原 崇實¹、*奥森 健史 (1. 大阪歯科大学 高齢者歯科学講座)

キーワード：パーシャルデンチャー、サベイドクラウン、オーラルフレイル

現在の超高齢社会において、オーラルフレイルを起点としてフレイルへと進行する高齢者は少なくない。アクティブシニアは社会活動への参加意欲が高く、歯科医療においては訪問診療や在宅診療へ移行する前段階に位置づけられる。したがって、この段階において将来的な身体機能や口腔機能の変化を見据え、口腔内環境を改善しておくことが重要である。

症例は82歳、歯根破折による咀嚼障害を主訴に来院した。初診時の口腔内を一口腔単位で診断した結果、顕在的病的咬合と判断し、咬合再構成による治療咬合を与える必要があった。補綴設計の一部として、サベイドクラウンおよびパーシャルデンチャーを用いた。

サベイドクラウンはマウスプレパレーションが組み込まれたクラウンであり、その特性上、歯科技工士との密な連携が不可欠である。本症例では歯科医師が基本設計を行い、歯科技工士が構造設計を担当した後、その設計に基づき治療を遂行した。その結果、サベイドクラウンとパーシャルデンチャーの一体化による残存組織の保全が達成され、咀嚼障害の改善が得られた。

メンテナンスにおいては口腔機能低下症の検査を継続して行っており、現時点では2項目が基準値を下回っているものの、口腔機能低下症の診断には至っていない。本症例より、アクティブシニアの段階における補綴治療は、歯科技工士と密に連携したパーシャルデンチャーを用いることで、オーラルフレイルの進行抑制に寄与する可能性が示唆された。

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

[CC-5] アクティブシニアに応える“質実剛健”な可撤性補綴

*池田 欣希¹、*工藤 耕輔¹ (1. 医療法人仁友会日之出歯科診療所)

キーワード：リジッドサポート、口蓋粘膜、ビーディング

アクティブシニアに対する部分欠損補綴として、第一にインプラント治療が想起される昨今ではあるが、外科的侵襲や経済的背景から全ての患者がインプラントによる固定性補綴を希望するわけではなく、可撤性補綴などの他の補綴方法によっても十分に患者を満足させ、機能回復に導くことが求められている。では、アクティブシニアに受け入れられる可撤性補綴装置の要件とは何か。それは、異物感や発音への影響を極力小さくすることで、審美性と心理的満足を両立した機能回復を行うことであると考え。我々は、河邊清治の臨床局部床義歯学や最近の知見を紐解き、口蓋粘膜の評価方法を再考し、パラタルストラップの走行位置やビーディングの付与、レストやマイナーコネクター形状を工夫することで、義歯の装着感と発音への影響の改善を試みてきた。我々の狙いはいわば“質実剛健”な補綴装置による機能回復である。その実現のために歯質および部分歯列欠損の評価を行い、歯の保存に努めるとともに、リスクを把握し、補綴後想定される問題に対応可能な補綴設計を計画することで10年以上の長期予後を見据えている。すなわち支台歯の抜歯や変化に対するリカバリーを考慮し、健康寿命まで約10年という時間軸において患者の健康変化に追従できるようメンテナンスを行っている。今回、約20年に及ぶ義歯補綴のパートナーである歯科技工士と連携して作製した金属床部分床義歯やIRPDなどの可撤性補綴装置により機能回復を行った数症例を提示し、その10年前後の予後について発表したい。

臨床コンペティション

2026年6月21日(日) 13:50 ~ 15:50 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

臨床コンペティション (歯科技工士セッション併催) アクティブシニアに向けた補綴治療

座長：新保 秀仁 (鶴見大)、秋山 謙太郎 (岡山大)、山谷 雄一 (科学大)

共催：一般社団法人 日本歯科技工学会

[CC-6] 全顎的重度歯周炎患者に対しデジタル技術を用いて抜歯即時インプラント治療を行った1症例

*野代 知孝¹、野林 勝司² (1. 九州歯科大学 口腔再建補綴学分野、2. 九州支部)

キーワード：インプラント、デジタルワークフロー、アクティブシニア

患者は64歳女性。全顎的な残存歯の著しい動揺による咀嚼困難を主訴に来院した。口腔内診査の結果、部分歯列欠損の症型分類スコア30、難易度Level IVであった。全身的既往歴に特記事項はない。患者は嘔吐反射が強く、抜歯後の補綴治療としてインプラントを希望したため、歯科医師 - 歯科技工士間で連携し、デジタルワークフローによる抜歯即時インプラント治療を計画した。光学印象採得の後、ラボサイドで残存歯データを削除し、デジタルワックスアップを行った。残存歯上に装着可能な診断用テンプレートと、ワックスアップ形態を反映したテンプレートの2つを製作し、それらの同一位置にマッチングポイントを付与した。CT撮影後、シミュレーションソフト上で2つのテンプレートをマッチングさせ、インプラント埋入位置を決定した。外科用ガイドプレートを用いてインプラントを6本埋入し、プロビジョナルレストレーションを装着し即時荷重させた。形態や咬合を調整した後、チタンアバットメント併用フルジルコニアによるスクリュー固定式最終上部構造を装着した。補綴治療介入前後で口腔関連QoL、咬合力、咀嚼機能が改善し、患者の十分な満足が得られている。本症例より、歯科医師と歯科技工士が連携しデジタル技術を駆使することにより、多数歯の抜歯即時インプラント埋入であったとしても適切なインプラント埋入位置の決定が可能となり、アクティブシニアの機能回復に有効であることが示唆された。